

工場から百間池へ流れる排水溝。有機水銀の排出が心配されている

# 再び有機水銀の不安

## チッソ水俣

# 塩ビ工場から流出か

## 熊大、近く分析調査へ

チッソ水俣工場はさき五月、水俣病の原因となったとみられるアセトアルデヒドの生産を中止したが、今度は新たに同工場内にある塩化ビニル工場からも微量ながら有機水銀が出ている疑いもたれている。このため、熊大衛生学教室では、近く同廠水の有機成分を行なうことにした。結果の判明は十月末の予定だが、工場から出される廃水の一部は、現在も百間排水溝から水俣湾に放流されており、成り行きが注目されている。

## 含まれていても微量 熊大見解

同工場では、塩化塩素系水銀が、船大ではさる三ヶ月前に使ってアセチレンと塩化水銀から塩化ビニルを作る。工場内では、有機水銀を使うのは、この塩化ビニルと、さきに生産を中止したアセトアルデヒド製造工程の二つ所しかなく、船大ではさる三ヶ月前に、四、五年ごろの本原因究明の過程で、同工場に疑惑の目を向けていた。しかし、当時の研究では、アセトアルデヒドの製造過程で有機水銀が微量に出ることは明らかにならなかつたが、塩ビ工場の水銀濃度は、同時に閉鎖物として出来るものと同等の塩化ビニル塩化水銀三塩化水銀アセトアルデヒドなどを動物に投与しても、病状が認められず、水俣病に無関係とみられていた。また、これまでの調査では、塩ビ工場廃水からは一度も有機水銀は検出されなかつた。

しかし、新潟県で塩ビ工場が原因となつて第三の水俣病が発生した。塩化ビニル工場一帯も河川の水銀汚染が著しく、水俣湾一帯にも相当量の有機水銀が認められること、理論的に塩ビ工場から有機水銀の排出が考えられることなどから、再び塩ビ工場廃水に疑惑の目が向けられたものとみられる。

三十四、五年当時の動物実験で塩ビ工場の水銀濃度を動物に投与しても水俣病症状を認めなかつた点について入鹿山貞雄熊大衛生学教室は「水銀濃度の中に、有機水銀のほかに多量の無機水銀が含まれている場合は、その影響が弱まるといわれる。無機水銀などの中毒症状が強く出ることがある。その場合は水俣病特有の症状は確認できない。過去の実験で確認できなかったのは、そのようなケースではないかどうかわかる必要がある」と言っている。

工場の話によれば、現在塩ビ工場の生産量は年間約八千ト、水俣病患者の発生がピークだった三十一、二年ごろの二万五千トからかなり減っている。排水量は一日四十六立方メートルである。非公式な船大の見解では、仮に有機水銀が含まれていたら、その濃度は、当時の分析機器で検出できなかつた有機水銀が今度検出される濃度の十倍に相当する。

### 可能性はある

入鹿山教授の話 有機水銀が含まれていても可能性はある。しかし、仮に含まれていたとしてもごく微量だろう。当時の分析機器では検出できなかつた有機水銀が今度検出される濃度の十倍に相当する。

### とも考えられぬ

中村チッソ水俣工場事務部長の話 水俣病発生から水銀ははたして気配している。有機はもともと、無機も出さない方針で、どうしたら一番いいか、船大に指示を仰いでいる。有機水銀が出ているとしても考えられない。水銀の分析はすべて船大に任せられている。しかし、一度も「有機が

